

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901734	事業の開始年月日	平成15年4月1日	
		指定年月日	平成15年4月1日	
法人名	社会福祉法人 宗得会			
事業所名	グループホームつばき			
所在地	(〒238-0311) 神奈川県横須賀市太田和2-10-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和5年2月21日	評価結果 市町村受理日	令和5年6月19日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者個人のその人らしさを大切に家族や地域と共に歩む家(ホーム)を目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年3月8日	評価機関 評価決定日	令和5年6月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 事業所は、JR横須賀線衣笠駅から徒歩7分程の衣笠十字路バス停、または京急三崎口駅バス停からバスに乗りし、最寄りの「太田和」バス停で下車し、徒歩5分程の場所に立地している。軽量鉄骨造平屋建ての建物で、事業所の天井は高く、各ユニットには、5か所のトイレとリフトを備えた浴室がある。浴槽から中庭の桜の木を眺められる造りになっている。 【委員会活動など法人との連携】 隣接地に同一法人の特別養護老人ホームやデイサービスの事業所等があり、事業所毎に感染症、研修、事故防止、防災、身体拘束・虐待の各委員会が設置され連携している。委員が中心となり新型コロナ対応、研修計画作成などを行っている。近隣の方も参加した炊き出し訓練などに法人全体で連携し取り組んでいる。また、法人の医務部の看護師などから、多様な場面で協力が得られ職員の安心に繋がっている。 【排泄の自立支援】 排泄チェック表でパターンを把握した定時誘導や利用者の様子に基づく随時誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。継続した支援によってリハビリパンツを使用していた方が布パンツに改善した例がある。現在おむつを使用している利用者はいない。 【筋力維持サポートの為に積極的な体操の実施】 コロナ禍により外出が難しい中でも、日に数回ほど、体を動かす機会を作って、筋力維持に努めている。ラジオ体操を始め下肢・筋力体操などに取り組んでおり、法人の理学療法士が月2回来所し、リハビリ体操の指導をしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットさざんか

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員に目標と、その目標を達成する為に何をするのかを提示してもらい、理念を共有し実践につながる様努力している	管理者の着任時に事業目標の重点課題を念頭に置き「入居者個人その人らしさを大切に 家族や地域と共に歩む家（ホーム）を目指します」という理念を掲げ、日々の申し送りで周知している。個人をより知ろうと心掛け、食事介助などが介助者のペースになっていないか等に配慮し、日々、利用者に寄り添ったケアをしている。	前回掲げた目標達成計画を引き続き継続する等、理念の共有方法について再確認することを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウィルスの影響により関わりはなかったが、防災訓練の一環として炊き出しを地域の方で行った	大田和町内会に加入し、回覧板を介して地域の情報を得ている。近隣の方とは顔見知りです。散歩時に挨拶し交流している。コロナ禍で琴などのボランティアや、地域の小学生などとの交流を中断している。医療福祉専門学校の実習生を2期に分けて20名程受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルスの影響によりつながりはなかったが、認知症の方に対する実践例などを今後伝えていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	集まって会議を行う事はコロナウィルスの影響により出来なかった	運営推進会議のメンバーは、家族代表、町内会役員、民生委員、市の民生局福祉こども部指導監査課の職員、地域包括支援センターの職員である。コロナ禍で奇数月に書面開催としている。事業所では、会議記録と運営状況報告をメンバーに郵送し、電話連絡などの際に意見を聞いている。ねぎらいの言葉はあるが、特段の意見などは寄せられていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあった時や相談等、担当者への連絡でアドバイスを受け、サービスの向上に努めている	市の民生局福祉子ども部指導監査課に運営推進会議の会議記録等を郵送して、運営状況や利用者の状況を伝えている。介護保険課には、事故報告の他、介護保険の加算手続きなどについて電話で相談し、要介護認定の更新代行で窓口を訪ねている。地域包括支援センターは、法人が受託しており交流しやすい関係である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を通し研修を行い理解を深めている	身体拘束適正化委員会指針がある。法人の各事業所の委員がメンバーとなり、毎月、身体拘束適正化委員会を開催している。委員会の内容を事業所に持ち帰り「身体拘束・虐待防止委員会」を開催し、身体拘束に関する研修を年2回実施している。委員会では、身体的拘束等の状況の確認、研修の開催などを話し合っている。研修では「五つの基本的ケア」などを自己学習して書面を提出し、知識を身につけている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を通し研修を行い理解を深めている	虐待防止委員会指針を定め、職員は、高齢者虐待に関する研修やストレスチェックを行っている。「虐待防止マニュアル」を整備して、虐待対応フローチャートで明確にし、通報の義務がある事などを確認している。虐待があった場合、管理者に情報が上がるようになっている。不適切なケアについては、サブリーダーが注意を促し、それでも改まらない時は、管理者が面談し虐待が見過ごされる事がないよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修委員会を通して各職員が理解を深められるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更がある際には不明点を確認しながら説明を行っている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見等がある際は可能な限り実践が出来るように努めている	家族の意見・要望は、面会時の他、家族会や敬老会で把握していたが、コロナ禍で中断している。現在は、電話連絡や必要物品を持参し来訪した際に把握している。家族から「面会以外の方法で会えないか」という意見があり、携帯電話の画面を通しての面会を試みている。管理者は、家族の要望にはできる限り沿うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員の意見を汲み取りユニット会議時に共有、改善、実践が出来る様に務めている	職員の意見・提案は、管理者が、日々の会話や毎月のユニット会議、年1回の個人面談などで聞き出し、相談にも乗っている。管理者は、職員からの意見・提案について、職員が前向きに取り組めるよう話し合っている。職員からは、「時間を決めて行っているケア以外の仕事は、誰もができるようにしたほうが良い」との提案があり実施した。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営体制が変わっていく中不透明なことが多く、職員の混乱を招く事には改善が必要。法人にではなく各職員に反映できるものが必要と思われる	事業所では、就業規則に基づいた業務運営を行っている。法人では、人事考課制度を採用し、管理者が個人面談を行い上長が評価をしている。管理者は、キャリアアップの基準を示すなど、職員のモチベーションアップに繋げている。法人がストレスチェックを行い職員の状況を把握している。勤務歴の長い職員が複数就労している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃のケアを他職員と共有し、個別ケアを目指す努力を続けている	法人は、研修計画を作成し概ね月1回、接遇、感染症、事故発生防止などをテーマとした研修を実施している。事業所が指示した認知症介護実務者リーダー研修などの外部研修の受講は、業務時間内の扱いで、受講料や交通費の支援が得られる。現在、ほとんどの職員が介護に関係する資格を取得している。新人の育成は、新人育成マニュアルに沿って行い、関わる職員を1人に決めて指導している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交流はしていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に困りごとや心配ごとを聞き、その内容を職員と共有した		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の困りごとや入居後の不安を聞き取り、職員と共有することで不安がないように務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活環境や既往歴などから、施設で可能な内容であれば、ご家族と相談し対応に務めた		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場であること、個々の生活ペースを崩さないように職員間で考え支援に務めた		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウィルスの影響により直接的な支援は困難だったが、日頃の様子や行事等の写真など書面にて伝えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスの影響により外出が困難であり、交流を深めることは出来なかった	入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の生活歴や馴染みの関係を把握している。コロナ禍で、友人や知人の訪問はないが、電話や年賀状などの取り次ぎ支援を行っている。家族が持参する好みの食品や生花などの取り次ぎを支援している。趣味の三味線を披露したり、編み物を継続したりする方がいる。毎日仏壇に水を供える方もいる。従来継続して行っていた家族との墓参りは、コロナ禍で中止している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話を見守りながらも職員が間に入ることで支え合えるような支援に務めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内では対応が可能な事柄に関しては協力して支援を行っていった		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居するまでの経緯や生活歴を把握できるように、ご家族から意向を含めて伺っている	職員は、利用開始前に住環境や生活歴を確認している。入所後は、日頃の会話の他、夜勤職員と2人になる時などに思いや意向を把握する機会がある。意思疎通が困難な利用者の、顔をしかめる、首をかしげる等わずかな反応を見逃さないようにして支援につなげている。把握した情報は、申し送りや個別の支援記録で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活スタイルをご家族から聞き、できる限りそのスタイルを崩さないように共有して支援を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活ペースを記録し、情報を共有している		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者を中心に、要望・課題等について検討し、介護計画と日々のモニタリングに努めている	介護計画のサービス記録の番号を記載したモニタリング表で毎日モニタリングをしている。介護計画は、1か月のモニタリングの総括をもとにカンファレンスを行い、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。ユニット会議の中でカンファレンスを行い職員の意見を反映している。短期目標は6か月、長期目標は1年ごとに見直しているが、状態の変化によっては随時見直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録や職員間での意見交換を通して、見直しや支援に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウィルスの影響により困難だった		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や市町村との関りの中で地域資源を把握して提供に努めている		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族が望む対応へ、往診医の紹介や受診時のサポートに努めている	利用者2名は、入所前からのかかりつけ内科医と、他の利用者は、事業所の協力医療機関の内科医と契約して、週1回、訪問診療を受けている。皮膚科の受診は事業所の職員が同行している。定期受診や眼科などの専門医への通院は、家族が付き添っている。受診結果は、「医療ノート」に記入し、情報共有している。訪問歯科医は、必要時に来所し治療などを行っている。同一法人の看護師が週1回来所し健康観察を行っている。法人に医務部があり何かあれば看護師から協力が得られる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調確認に努め、変化時は法人内の看護師に報告・相談し適切な処置や受診が出来るように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、入院中もこまめに連絡を取り、状態把握等の情報交換に努めている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応の指針説明や同意・終末期における意向確認を適宜行い、必要時にはカンファレンスを行い、本人やご家族の要望に沿った対応に努めている	契約時に「看取りに関する指針」で事業所の方針を説明している。事業所は、毎年「終末期における医療等の意向確認書」で家族等の意向を確認している。利用者が重度化した場合は、医師や家族と相談しながら「看取り介護の同意書」を得て、介護計画を作成している。ベテラン職員の指導の基、今年度は1名の看取りを経験している。	新人職員や夜勤専従、派遣社員など様々な勤務形態の方が勤めていることから、年1回の法人主催の研修に加え、グループホーム独自の研修や振り返りを実施することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、定期的に職員へ確認を行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練実施や機器の説明を行っている。地域との協力体制へ向けて取り組んでいる	事業所は、所在地が、高波などの想定区域内であることを確認している。前年は水害対策の訓練を実施し、今年度は火災を想定した訓練を8月に実施、今後3月にも実施を予定している。事業所の避難訓練に地域住民は参加していないが、隣接の特別養護老人ホームから応援が得られる。法人主催の炊き出し訓練に数名の職員が参加している。災害備蓄品はリストを作成し、1日分の食料と飲料水の他、カセットコンロ、発電機などの生活備品や簡易トイレなどを確保している。2日目以降の食品は、道を隔てた法人の倉庫で保管している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で学んだことを実践し、人格尊重し、プライバシーを損ねないように取り組んでいる	職員は「接遇」「プライバシー保護と個人情報の取り扱いについて」の研修を受講しプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。訪問診療はリビングや居室など、診察状況により場所を変えプライバシーに配慮している。個人情報に関わる書類は、事務所に施錠して保管し、緊急時に持ち出しが必要な物は、ファイルに纏めキャスト付きの保管庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを汲み取り、自己決定ができるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを崩さないようし希望を伺いながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣服を着用できるように支援をしたり、定期的なヘアカットも希望に沿って実施していった		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事ではいつもと違った食事を提供したり、食事の準備や後片づけも一緒に行っている	専門業者の献立を基に配送される主菜と副菜を温め、ご飯と朝食の味噌汁は職員が作り提供している。利用者は、盛付けや食器洗いなどを手伝っている。利用者の状況に合わせて、刻みやトロミ食を提供している。月1回、利用者皆が好物のお赤飯を提供する日と、どら焼きなどを作る手作りおやつの日があり、利用者を楽しませている。また、正月にはおせち料理、クリスマスにはピザなどの特別食を提供している。種類が選べる釜めしの出前をとることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが整った食事を提供している。また、個々に合った形状で提供するように調整している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後の口腔ケアを実施しており、定期的に専門的なケアを実施していった		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、出来る限り紙パンツやパッドを使わないように取り組んだ	「排泄チェック表」でパターンを把握し、訴えの無い方の定時誘導や利用者の様子に基づく随時誘導を行いトイレでの排泄を支援している。夜間は、睡眠優先や定時誘導など個人の特性に合わせてパッドの大きさを変える支援をしている。入所時はリハビリパンツだった方が支援の結果、布パンツに改善した事例がある。職員のケアが功を奏し、現在おむつを使用している方はいない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や、必要な方には乳製品の提供を行った		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	状態に合わせて入浴方法を検討した。安全確保やプライバシーを重視し、マンツーマンにて対応している	原則週2回、午前中を中心に入浴している。リフト浴があり湯船を跨げない利用者でも入浴が可能である。入浴を好まない利用者には、声掛けの工夫や、時間を変更して促している。利用者は、菖蒲湯、柚子湯で季節を感じ、春は湯船から中庭の桜を眺めて楽しみながら入浴している。入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のペースを尊重し休息をしており、換気や空調の調整や照明の調節を行った		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬後の状態を観察し、気になることは医師・看護師へ随時相談をした		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その時期にあった行事を企画し実施した		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの影響により困難ではあったが、近所への散歩や庭での行事は行った	天気の良い日には、事業所の周辺などを散歩している。感染対策をして、車を利用し、お花見ドライブに出かけている。中庭でおやつを食べたり、焼きいもをして気分転換している。外出を好まない方も中庭や日当たりの良い室内で日向ぼっこをしている。コロナ禍で外出が難しくなったが、体を動かす機会を多く作り、ラジオ体操を始め、下肢体操や筋力体操を日に数回行うことを日課として取り組んでいる。法人から理学療法士が来所し、リハビリ体操の指導なども行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身での金銭管理は行っていない。希望品は家族や職員が随時購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時には電話をしたり近況を手紙で報告している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や整理を実施すると同時に季節感を感じられるような装飾をし、時にはその装飾を職員と共に制作している	共有空間は、明るい日差しが差し込みゆったりしている。陽ざしはブラインドで調整している。窓の開閉で換気し、温度・湿度管理は、エアコンや加湿器を調整して行っている。ユニットごとに居室に隣接して5か所のトイレがある。リビングに季節の花や季節行事の作品などを飾っている。浴槽から中庭の桜を眺めながら入浴できる造りのリフトを備えた浴室があり、玄関や中庭の植栽で季節を感じ取る事ができる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内の席を調整したり、交流がもてるようにレクリエーションを実施している		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のあるものや、家族の写真を居室に飾ってある	居室は、ベッド、エアコン、クローゼット、照明器具、洗面台、障子、カーテンが備え付けられている。タンス、椅子、テレビ、加湿器、仏壇、こけし、ぬいぐるみ、写真、三味線などの馴染みの品や思い出の品が持ち込まれている。安全対策として、離床マットセンサーを使用している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活スペースに危険がないよう、定期的に環境整備を実施している		

事業所名	グループホームつばき
ユニット名	ユニットつばき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が事業所理念を共有し、常に意識し、日々ケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	前年度同様、コロナウイルスの影響で関りはなかったが、法人として震災時に支援活動など、地域との協力へ取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前年度同様、コロナウイルスの影響で関りはなかったが、認知症の方に対する実践例など、終息後には伝えていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	集まって会議を行うことはコロナウイルスの影響によりできなかった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点がある際は、市町村の担当者に連絡し、アドバイスをいただく等サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置し、マニュアル作成や研修を行い、委員を通じて職員全体の理解を深めるよう努めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け、マニュアル作成や研修を行い、常に注意を払い、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修委員会にて各職員が権利擁護についての理解を深められるよう、研修資料を作成し、研修を実施した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更時等、都度不明点を確認しながら説明に努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族からの要望がある際は、可能な限り実践できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議時に職員からの意見を汲み取り、共に実践できるよう努めている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の評価や職場環境、条件の整備に努めている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加時のフィードバックや内部研修へ参加にてサービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修を通じて、一時的ではあるが同業者との関わりを持ち、情報交換を行うことで、サービスの質の向上に努めた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問や、関係者と情報交換を図り、信頼関係の構築と不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分な説明を行うとともに、不安点や要望等を確認し、安心できる関係性づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望を確認しながら、適切なアドバイスができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活のペースに合わせ、本人のペースで家事やその他の活動を一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響で困難な時もあるが、本人の様子を伝えるとともに、必要時のサポートを依頼する等、共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの影響により外部との接触が困難なため、電話等を通して、外部との関係の維持に努めた。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見極め、良好な関係を保てるような生活環境づくりや支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約後も必要時は相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向の把握に努め、困難時は本人本位又は家族の意向を確認している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時や入居後も情報収集に努め、全職員が共通の認識を持てるよう、書面にて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のペースを記録し、職員間で情報を共有している。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一斉に集めて話合いは困難であったが、管理者を中心に、要望・課題・支援等について検討し、介護計画と日々のモニタリングに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援記録や職員間での意見交換を通して、介護計画の見直し、支援に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の影響で困難であった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や市町村との関わりの中で地域資源を把握し、提供に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が望む対応へ、往診医の紹介や受診時のサポートに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調確認に努め、変化時は法人内の看護師に報告、相談し、適切な処置や受診等が早期に対応できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供を行い、入院中もこまめに連絡を取り、利用者の状態の把握や情報交換に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応の指針説明や同意、終末期における意向の確認を適宜行い、必要時はカンファレンスや本人、家族の要望に沿った対応に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、定期的に職員へ対応方法の確認を行っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練の実施や機器の説明を行っている。また、地域との協力体制に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、個々に合わせた声掛けや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや行動を汲み取り、自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活のペースに合わせた支援を心がけ、その人らしい暮らしが実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに合わせた衣類の購入や整容の支援を行い、定期的な出張ヘアカットサービスも取り入れている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食の提供やおやつ作りを共に行い、準備・片付けもできる範囲で行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量や食事形態での提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に行っており、個々の状態に応じて口腔ケアを実施している。また必要時には歯科による往診も行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の確認により、個々の状態に合わせた排泄支援を行っている。日中は可能な限りトイレでの排泄に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせ、乳製品の提供や個別の体操を取り入れ、スムーズな排便が行えるよう努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	マンツーマン対応を基本として、希望を確認の上、個々の状態に合わせた入浴方法にて支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活ペースに合わせた休息をとられており、換気や温度・湿度調整、照明の明るさの調整も注意して行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬目的、用法、用量、副作用について、全職員が理解・確認行えるよう、内容を常に共有し、服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた活動の支援や、提供を行っている。また、毎月季節に合わせた行事を開催している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍において、長距離の外出は困難であったが、本人の希望により、近所への散歩等の支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個々での金銭管理は行っていないが、希望時には家族や職員が購入している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話や手紙をかけるよう支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃や整理整頓等の環境整備を心がけ、季節に合わせた飾り物を装飾をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の関係性に合わせた座席に配慮している。共有スペースにはソファを設置し、くつろげる空間づくりをしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの物や本人の好む物、配置にすることで、本人が安心して過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や各場所に表札を設置している。定期的な安全チェックを実施しており、環境整備を心がけている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームつばき

作成日 令和5年6月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	運営理念・方針が全職員が周知していく共有方法を再確認できていない状態である。	全職員が運営理念・方針を再確認し共有していく。	日々の申し送りや理念を掲げ全職員で周知し実践していく。	令和5年5月1日～令和6年3月31日(11ヶ月)
2		看取りや重度化に対するグループホーム独自の研究 研修 や振り返りが行えていなかった。	振り返りの機会を設けていく。	職員会議を南き看取りについて振り返りを実践していく。また法人においても重度化に対する研修を実践していく。	令和5年7月1日～令和6年3月31日(9ヶ月)
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。